

もしもブラック企業に入ってしまったら

冷静な内に行動を

悪質な企業の被害者は正常な思考を失うことも多い。電通の過労死のケースでは、亡くなった社員の残業時間が過労死ラインを超えていた。過労死ラインとは、健康に害が出るとされる残業時間の目安であり、月に80時間以上の残業は生じるのに十分な睡眠が取れないとされる。肉体的に追い詰められれば、冷静に考えることは難しくなる。ブラック企業は精神面からも労働者を苦しめる。企業が彼らを自主的に辞めさせようとする時、それは如実に現れる。能力がないなどという理由をつけ、単調でブライドを傷つけるような仕事に追いやる。企業側は強い圧

迫をしながら、時には優しく辞職を促す。この行為が繰り返されると、労働者は「自分が迷惑をかけているからこのような扱いを受けるのだ」と思うようになり、肉体的・身体的に深刻な段階に追い込まれてからは、ブラック企業と渡り合うのは難しい。自分の置かれた状況を冷静に捉えられ、できる限り早く手を打つことが必要だ。POSSEはブラック企業に入ってしまった時の対処法として、四つのキーワードを挙げた。一つ目は「会社の言うことが全てではない」である。相談に来る時点では、会社が間違っていることに気づいていない。二つ目は「あきらめない、自分を責めない」である。学校で行われるキャリアデザインでは、企業に自分を適合させたり、自分の魅力を売り込んだりするための授業が行われる傾向がある。そのため、トラブルの原因が自分にあると思ってしまう学生は多い。会社に迷惑がかかる、自分に落ち度がある、などとあきらめてはいけない。

ブラック企業に入ってしまった時の4つのキーワード

1. 会社の言うことが全てではない
2. 諦めない、自分を責めない
3. おかしい、辛いと思ったらすぐ専門家に相談する
4. 証拠・記録を残す

三つ目は「おかしい、つらいと思ったらすぐに専門家に相談する」である。自分で判断して行動した結果、法律を行使できなくなってしまうこともあるため、避けなければならぬ。友人や家族に相談するのも大切ではあるが、根本的な解決につながる。企業外の労働組合や労働弁護士など、専門家にすぐ相談するべきだ。

四つ目は「証拠・記録を残す」である。証拠や記録があれば、都道府県労働局や労働局基準監督署などの公的機関がすぐに動くことができる。そのためには契約書のコピー、発言の録音、労働時間の記録などを残すことが必要だ。他にも、アプリの利用や、GPSのスクリーンショットを取るなどの方法がある。未払い賃金に関しては、2年前までの分であればいつでも給料の請求が可能だ。大げさに感じるかもしれないが、これらは有効な対処法だ。四つのキーワード全てに通じるのは冷静さである。ブラック企業は被害者を追い詰め、支配しようとする。支配から逃れるために、自分を冷静に見つめなくてはならないのだ。

ブラック企業の見分け方

3年後離職率が目安

今野氏も関わる団体・ブラック企業対策プロジェクトは現在、サイト上で「ブラック企業の見分け方」という大学生向けガイドを公開している。気をつける点としてまず挙げられるのが離職率である。新卒採用者の3年間で

業員の人数の比率からおおよその離職率を推測できる。他にも平均勤続年数や平均有休消化日数を知ることもできる。客観的な数値は書籍などを利用して能動的に集める必要があるが、ブラック企業を見分けるのに非常に役に立つ。加えて、インターネット

～ブラック企業チェック～

- ・ 離職率が30%以上
- ・ 過去に過労死や訴訟が起きている
- ・ 固定残業代が導入されている
- ・ 求人広告の情報が頻繁に変わる

も有効な手段の一つだ。匿名掲示板の口コミなど正確な情報ではなく、まずはその企業の名前を新聞記事のデータベースで検索してほしい。過労死や過労自殺の事件、残業代不払いが記事として書かれている場合がある。過去に新聞などで労働問題が取り上げられた企業は、現在の経営体制がどうなっているのかも一度疑ってみるべきだろう。

他にも固定残業代が導入されていないか、求人情報が頻繁に変わっていないか、なども注意点だが、これらは一面で述べたように「求人詐欺」と関わっている可能性がある。

東大大学院 進学者が語る

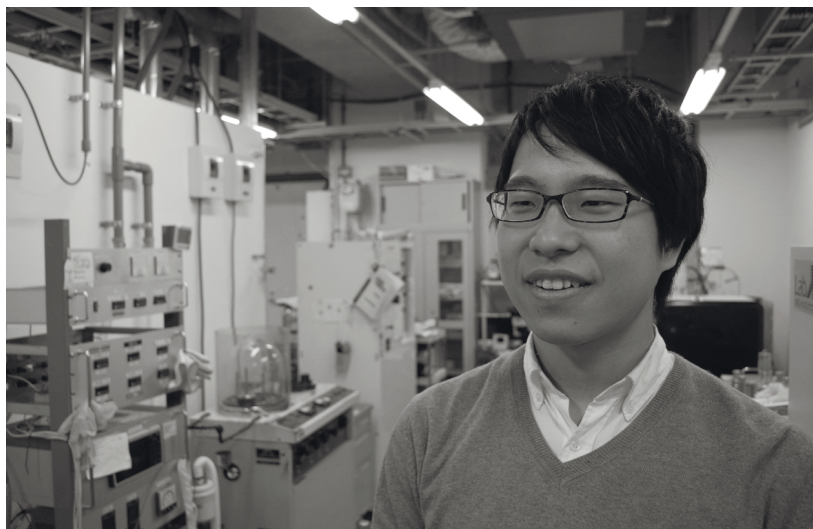
勉強の積み重ねが大事

学部生の中には卒業後の進路について、大学院へ進学しようと考えている人も多いのではないだろうか。今回、本学から大学院へ進学したOBの川北純平氏に院進学についてインタビューをした。

—なぜ大学院へ進学しようと考えてたのですか。また、それはいつ頃ですか。

私は3年生の夏頃に卒業後の進路について、就職か院進学かを考えるようになりました。しか

し、まだ研究を始めて間もない4年生の6月の時点ではほとんど研究の経験がありません。学部生で就職すると考えた場合、その状態で面接を受けることになり、文系の学生と大差が無いように



川北純平

2012年4月 東京理科大学理学部第一部応用物理学科 入学
2016年3月 同大学理学部第一部応用物理学科 卒業（岡村・中嶋研究室所属）
2016年4月 東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻 入学（辛研究室所属）

現在修士1年

私は3年生の冬から図書館へ通い始め、院試に向けての勉強を始めました。院試は大学で学んだことが出題されるので、まずは

—どのような院試の対策をしましたか。

私は3年生の冬から図書館へ通い始め、院試に向けての勉強を始めました。院試は大学で学んだことが出題されるので、まずは

理科大か国立大学かを考えたときに、学費、学術面、モチベーションなどの点から国立大学の院へ進学しようと考えました。

—大学院入試の概要について教えてください。

私の受けた東京大学大学院では、出願が6月下旬、試験が8月下旬に実施されました。入試は2次試験までであり、1次試験は外国語と専門科目の試験、2次試験は口述試験でした。私は外国語として英語を受験しましたが、英語はTOEFL ITP®の試験、そして専門科目は約30問中から4問を選択して解答するという問題でした。難易度は、大学の定期試験で出題されるレベルでした。結果は、8月末から9月上旬にかけて発表されました。

—研究室での生活について教えてください。

基本的には平日は朝の8時から夜の11時頃まで研究室にいます。研究をしながら分からないことを自主的に勉強したり、実験データを解析したりするなど、周りの人たちについていくために頑張っています。学部時代と違い、大学院では研究について誰かから指示されることが少ないため、

復習から始めました。図書館にある問題数の多い参考書を選び、何回も解きました。

—大学院では何の研究をしていますか。

学部4年生のときは、誘電体について研究をしていました。が、より幅広い分野の研究がしたかったので、大学院からは磁性体に関する研究に変更しました。今は、「光電子顕微鏡による磁気ドメインの観察」というテーマで研究をしており、企業と共同研究するなど産学協同の研究を進めています。

—最後に本学の学生に一言お願いします。

学部生のみなさんは4年生になって研究室に入ります。研究では、学部1年から3年までの勉強の積み重ねがとても大事になってきます。今やっている勉強の中には役に立たないと思うものもあるかもしれませんが、しっかりと勉強に役立っていると思います。今の勉強を大切にしてください。やって損はありません。